日本人サッカー選手がドイツ・ブンデスリーガで活躍する為の要因と方策

トップスポーツマネジメントコース
5019A310-2　長澤　和輝　　研究指導教員　平田竹男教授

【背景】

ブンデスリーガは欧州５大リーグの中でも、成長著しいリーグであり、日本人選手が 2000 年以降で 41 名と最も多くプレーしているリーグである。

私自身は2013年に大学選抜のドイツ遠征をきっかけにＪリーグを経験せず、22 歳でブンデスリーガ移籍を果たした。3 シーズン在籍し、2016 年浦和レッズに移籍した。ブンデスリーガ移籍直後は何に気をつけるべきかなど前情報がなく全てが手探りで苦労を要した。同時期にブンデスリーガで活躍した選手も同様の苦労経験していた。実力ある日本でのトップ選手が活躍できず、去る姿もみた。

日本サッカー界の発展の為には、世界のトップレベルのブンデスリーガで戦う希望を持つ実力のある日本人選手が存分に活躍することが重要であるが、ピッチの内外での齟齬により不本意な結果に終わることを未然に防ぐための知識の整理が必要であると感じている。

海外挑戦に関して、移籍金の流れといったビジネスサイドの内容は明らかになっているが、実際にプレーした選手の経験は個別の情報に留まっている。本研究により、ブンデスリーガで活躍した選手の経験を分析し体系的にまとめることは、今後海外移籍を目指す選手や指導者の参考になり、より多くの選手がブンデスリーガに円滑に移籍し、活躍する可能性を高めると考える。

本研究の目的は、日本人選手がブンデスリーガで活躍するため、移籍の準備段階及び移籍後において、必要となる知識と対策を明らかにすることである。

【方法】

１．ブンデスリーガ所属日本人選手全41名の調査

対象者はドイツ ・ブンデスリーガでプレーした全41選手で、調査内容は平均出場時間、海外移籍時の年齢、デビュー戦までの日数、在籍期間、これらのデータを在籍期間が3年以上の選手(n=21)と３年未満の選手(n=20)で比較した。

２．インタビュー調査

インタビュー参加への同意が得られたドイツ ・ブンデスリーガで3年以上プレーした選手とドイツ ・ブンデスリーガの代理人、コーチを対象に、半構造化インタビューを行った。それぞれのインタビューガイドは、①選手：移籍の経緯・チーム選択の基準、チーム加入後に意識すること、②代理人・コーチ：ブンデスリーガの特徴、海外クラブが日本人選手に求めるもとした。選手のインタビューの内容はSCAT分析（大谷，2019）で、代理人・コーチのインタビュー内容は質的記述的分析を行った。また４選手のインタビューとは別に香川真司選手へのインタビュー、高原直泰選手、長谷部誠選手、酒井高徳選手、岡崎慎司選手、清武弘嗣選手、乾貴士選手の6名の選手の海外挑戦に関する文献調査を行い論の補強を行った。

【結果】

１．　ブンデスリーガ41名のデビューと出場記録

在籍した 41 人（FW:MF:DF＝4:4:2）は 23 歳で移籍し、平均 3.2 シーズン在籍していた。3 年以上在籍した選手は 20 人で、移籍後約 1.5 ヶ月で初出場したが、在籍 3 年以下の 21 人では初出場に 3 ヶ月弱要していた(表１)。

表 1 ブンデスリーガ 41 人のデビューと出場記録

項目	全体	3年以上	3年未満
平均出場時間（分）	70	72	52
移籍時の平均年齢（歳）	23	22.8	23.1
デビュー戦までの平均日数（日）	65	47	82
平均在籍期間（年）	3.2	5.2	1.3

２．日本人選手へのインタビュー（3つの共通点）

（１）移籍前の行動や考え方

移籍前においては事前情報を有能で信頼できる代理人から得た。日本とは違う市場へ挑戦するためのノウハウやチームに関する情報量が豊富で、チームとの調整力がある代理人に出会えたことがブンデスリーガへの移籍につながっていた。

さらに移籍前の交渉段階では監督との交渉を行った。その過程において監督との信頼関係を構築し、戦術の特徴把握、監督やチームのニーズを把握した。自分の考えを伝えるとともに監督の考え方を引き出すことが必要で、主体的に自己を売り込む交渉力やアピールできるコミュニケーションスキルが必要となる。

(2) 在籍後の行動や考え方

チーム加入後は監督の戦術を理解し監督が望むプレーをすることで信頼関係の構築や強化していた。チームのニーズにあわせたプレースタイルに変化させる順応性は勿論、練習も試合のように全力で行うことや、自己の長所をアピールしつつ強化することで、チーム内で自身の立ち位置を獲得した。監督の考えに応じてプレーを変えられる技術力と賢さの必要性が強調された。

(3) 海外挑戦のメンタリティ

海外でプレーをすること自体が非常に孤独であり、試合で結果が出なかった時は更に孤独を易く精神的にも厳しい環境であった。仲間や家族の支え等、自分なりの精神的な拠り所を得ることも重要であった。

３．代理人・コーチへのインタビュー

①サッカーのプレースタイルの潮流は変化する。

南野選手はCLのリバプールとの対戦試合で大活躍したことがきっかけであるが、ザルツブルクでラングニック監督の弟子ジョセマーシュの指導を受けて、ストーミングサッカーを学んでいたことが大きい。リバプールのクロップ監督はザルツブルクからマネ、ホッヘンハイムからフィルミールを獲得したが、ラングニック監督はザルツブルクの時にマネ、ホッフェンハイムの時にはフィルミーノの監督であった。（内田選手もシャルケ04でラングニック監督のもとでプレーした。）このように、世界の最先端の技術が修得でき、アピールできる五大リーグの近傍で実績を積むことはその後の移籍においても有利になる。

②ブンデスリーガは戦術に特徴のある監督が多く、試合に出続けるためには、対戦相手ごとの監督の戦術を深く理解し、信頼を得ることが重要である。

③ブンデスリーガのスカウトは、オランダ、ベルギー、ブンデスリー2部での活躍を評価の基準としている。

④移籍金が高くない若いうちに海外挑戦をするべき

⑤近年、イングランドから若手の有望な選手がブンデスリーガでプレーし始めている。これはイングランド協会の4Cornerモデル（技術、フィジカル、メンタル、社会性）という選手育成モデルの成果と考えられる。

【考察】

１）日本人サッカー選手がドイツ・ブンデスリーガで活躍する為の要因

23歳以下で移籍を決め、移籍後早い時期にデビューした選手は5年以上在籍できていたことから、即戦力として結果を残すことが何より重要である。結果を出せた選手は移籍前の準備ができていたことが要因と考えられる。

また、日本人がブンデスリーガで活躍するためには、技術力はもちろん、監督のタイプを見抜き、交渉できる力をつけることが重要になる。監督のタイプは大きく２つあり、監督の目指すサッカーに合わせて選手を起用する「戦術重視型」、在籍する選手の能力を引き出そうとする「選手重視型」である。それぞれの監督の特徴を理解した上で、自分のプレースタイルも提示し、売り込みながら監督の望むプレーを実現できることが重要である。日本ではチームのエース級の選手が移籍後、ポジションの変更や慣れない守備を要求されたが、このような起用も受け入れ、チーム内の自身の位置づけを確立し役割を果たす場合もある。

２）ブンデスリーガへのステップアップ

近年ブンデスリーガの経済規模の拡大に伴い、各クラブは年俸が高くても即戦力となるイングランドやフランス等の有望な若手選手を獲得する傾向にある。2014年には15人いた日本人選手が2018年には3人に減少している。このような変化に応じるには、直接ブンデスリーガに行けない場合でも、オランダ、ベルギー、ドイツ２部リーグ等を「ステップアップリーグ」として位置づけブンデスリーガへの移籍を狙う方がより現実的になる。つまり、日本代表で中心選手であっても、語学や順応性、サッカースタイルの理解などの点でより即戦力を求めるブンデスリーガのクラブにとって判断が難しいからである。

３）移籍を考える選手に必要な能力

移籍の話が来たら、有能な代理人を交え監督との面談の要求なども含め前向きに交渉のテーブルに着くことが必要である。その時に求められるコミュニケーションスキルは、幼少期からのコーチングも大切だが、日頃から人間性を高めていくことも必要になる。

4）本研究の限界と今後の展望

久保建英選手は小学生からスペインで過ごし、言葉の壁をなくし、欧州のプレースタイルを身につけそして18歳でスペインチームへ移籍したが、このようなケースは今回の研究では対象としていない。今回は、これから先のステップリーグ等を通じてブンデスリーガに移籍した選手がどのような軌跡をたどるのか、さらに研究が必要である。

【結論】

ブンデスリーガ移籍の成功には多くの要素が絡み合うが、少なくとも以下の9つ基礎的なポイントが重要である。

①移籍の仕組みを理解する：移籍のルール、メカニズムに関する知識獲得する

②海外へのコネクションある有能な代理人を選ぶ

③監督を分析し適応する：戦術の特徴把握、監督やチームのニーズを把握し、監督の考えに応じてプレーを変えられる技術力と賢さを身につける

④選手自身が自分の立ち位置を把握する：自分の置かれている立場、状況がチーム成績、選手の怪我などで常に変化することを理解し、練習も試合のように全力で行動する

⑤交渉力：自分の考えを伝えるとともに監督の考え方を引き出し、主体的に自己をアピールできるコミュニケーションスキルを磨く

⑥知名度を高める：選手としての認知度を高めることが選手の価値になり、クラブの商業的利益にもなる

⑦若い頃から海外挑戦：ユース世代の国際大会で活躍しスカウトなどの目にとまること

⑧新しい環境への順応：早くチームの文化に馴染み、言語、食事、息抜き、グラウンド、フィジカルなどの様々な違いへ適応できる力を持つ

⑨サポート体制：生活面に加え、メンタル面でのサポート体制を自ら整えること。

以上により多くの日本人選手が円滑に海外移籍を成功させ、世界でさらにＪリーグが注目されることを願う。